

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成26年6月19日実施】

平成25年度自己点検自己評価(平成25年4月1日～平成26年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3		教育理念・目的・育成人材像は、明文化・文章化されており、会議や研修等においては、これらを用いながら行うことで理念等の普及・徹底を実現している。また、マーケティングとイノベーションにより、社会の新たな人材ニーズと見出し、育成人材像として明確化して学科を創設してきた。	① 実学教育・・・特定の職種で、即戦力となる専門的な知識・技術（テクニカルスキル）を身につける。 ② 人間教育・・・いかなる職種でも必要なプロとしての身構え、気構え、心構えを持った職業人を養成する。 ③ 国際教育・・・在学中からコミュニケーション言語としての英語、および専門英語を身につけるばかりでなく、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う。	③・2・1	<p>・チーム医療、地域連携等の現場ではコミュニケーション能力+知識・技術が求められている。今後も現場目線での指導、教育をお願いしたい。</p> <p>・貴校が掲げる教育理念や目的、人材育成像は今、社会が求める人材と一致している。ひとり一人に合わせた教育とチーム医療の大切さを今後も学生達に伝えていただきたい。</p> <p>・国際感覚を持った学生を育成することは重要です。</p> <p>・実学・人間・国際教育からの視点により教授力向上は良い結果に繋がると思う。教授力に対して学生アンケート実施は評価できる。</p> <p>・理念が明確にされ教員ひとり一人にも細かく説明されていて素晴らしい。本人および家族の為にも資格を取って卒業することが大切。退学者を減少させる努力を今後も継続して欲しい。</p> <p>・技術・知識も大切ですが、それを操るのは人間。人間力を高めてもらえるのは保護者として有り難い。</p>
	1-2 学校の特徴は何か	3		事業計画において、下記を掲げている。 1) 「チーム医療教育」の推進 2) 「ひとり一人に合わせた」教育力の向上 3) FD活動の強化 上記に従い、独自の教育プログラムを構築している。	① 「チーム医療教育」の推進・・・本校独自の学科構成を活かし、「多職種協働」をキーワードに学科連携型授業を行っている。 ② 「ひとり一人に合わせた」教育力の向上・・・多様な学生や顧客ひとり一人に全力でサービス提供できる「スキル」の習得と「文化」の構築を行っている。 ③ FD活動の強化・・・学生一人ひとりが目標をクリアする力を身につけるための授業力、教授力の向上を図っている。		
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	3		学校の将来を組織運営面と教育＝人材育成面の両視点から捉えている。常に5年先を見据えて事業計画を立て遂行しており、将来構想を明文化し運営している。	5カ年の目標として、下記を掲げている ①中途退学者を0名にする。 ②専門就職（学科、コースで学んだ専門性を活かすことができる就職先）率100%を継続する。 ③就職後、1年以内の離職者を0にする。		
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3		学校事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決議を受け、承認を得ている。また、学校の事業計画は毎3月の初旬に研修を行い、全教職員へ周知徹底している。	本年度における運営方針は以下の通りである。 ① 「チーム医療教育」により教育力向上を図る ② 「ひとり一人に合わせた」サポートを提供できる「スキル」の習得と「文化」の構築を図る ③ 各種研修により、教職員ひとり一人の成長を図る	③・2・1	<p>・制度が全てキメ細かく設定されていて、スタッフにおける差が出ないようにしているのは素晴らしい。</p> <p>・大きな組織でしっかり運営されていると感じた。</p> <p>・全てバランス良く、システムが出来ている。</p> <p>・5年後を見据えた事業計画と運営方針は適切に実施されていると思う。是非、出願率70%退学者0%離職率0%が達成される事を期待する。</p> <p>・現場でも離職対策を行っていますが、学校にも協力していただけないという事で心強く感じる。しっかりした運営方針、事業計画が定められており、今後も引き続き実行していただきたい。</p>
	2-5 事業計画は定められているか	3		学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。また、事業計画を教職員が自立的に計画・決定し全員で共有している。その上で、職場運営が実行されていく。	事業計画の構成は以下の通りである。 ①組織目的②運営方針③実行方針④定量目標⑤定性目標⑥実行計画⑦組織図（単年度）⑧職務分掌⑨部署ごとの計画及びスケジュール⑩附帯事業計画⑪職員の業績評価システム⑫意思決定システム⑬収支予算書		
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3		意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。	運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されている。その全体像は、事業計画書の組織図に示されている。 組織は、BBB推進会議を中核に5年先の学校運営のビジョンを描きながら、各部署のマネージャー達が中心となって学科、センターの運営をしている。また、人材育成の観点では各委員会、研修を通じてスタッフの育成を図っている。		
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3		採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。	目標の達成度には本人評価も含まれる。 また、数値で評価できない業務についてはプロセス評価も導入している。 評価の妥当性については、運営会議にて全マネージャーで決定をし、評価の矛盾が無いようにしている。		
	2-8 意思決定システムは確立されているか	3		意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で各リーダーに権限は委譲されている。	以下の会議・ミーティングの議題・議事録は関係者に配信され意思の統一を図っている。 ①常務会②グループ戦略会議③BBB会議④運営会議⑤全体会議⑥部署別会議⑦プロジェクト会議⑧O・N・O（上長面談）⑨講師O・N・O⑩TBM(ワルボックスミーティング)⑪朝礼・終礼		
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2		システムは、①学籍簿管理 ②時間割、成績・出席管理 ③学費管理 ④入学希望者管理 ⑤各種証明書管理 ⑥求人企業、就職管理 ⑦卒業生管理 ⑧学校会計システム ⑨人事・給与システム ⑩研修旅行管理システム ⑪寮管理システム ⑫健康管理システム 等により構築され業務は効率化されている。	情報システムは管理者権限が設定されており、慎重に取り扱われている。出欠管理はIpadによる新システムを導入し、稼動し始めている。			

3 教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3	学科（コース）の課題を明確にして課題キーワードを抽出。 それによって養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。	課題を明確にする際には「業界調査」、「学科調査（入学者傾向、在校生傾向、就職先傾向）」、「競合校調査」をファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター（FDC）が中心となり各分野のリーダー的存在である講師陣を交えたプロジェクトチームで実施している。	③・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の求めに応じた養成目的・教育目標の設定・カリキュラムの作成が行われており、今後も業界調査を実施し現場の求める人材育成をお願いしたい。 ・現場に合った教育プログラムの実施、および学科や学校を超えた連携教育の実施など、技術・知識を修得することと、人間性を磨く内容になっていると思う。また、学生のレベルに合わせた対応を行っている事も退学者を減らす事に繋がっていると思われる。 ・理念がしっかりして、そのまま授業への一貫性を持った教育体制が出来ている事は大変評価したい。価値観が多様化し、また、少子化が進む中、個別の支援システムでひとり一人の対応は絶対に必要と考えます。 ・専門学校でありながら、科目、学科を越えた横断的な取り組みは大変良い事であると思う。保育者養成についても、生命の大切さなどを学べる機会になると思う。 ・ひとり一人を大切に学生を指導していただいているのが分かった。成績下位20%には個別プログラムが必要という話には賛同する。
	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	3	学期ごとの到達目標や学年目標を設定している。目標設定の際には、必ず「学科調査」「業界調査」「競合校調査」を行い、内部と外部の現状分析を踏まえ、修業年限の中で確実に到達できる方法を確立している。	シラバス、コマシラバスにより各科目ごと授業毎の概要及び到達目標を明示すると共に、授業毎に小テストを行うことにより、各授業における理解度の確認を行っている。		
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	3	MMPプログラム（ミッション、ミッション、プロフェッショナル）に基づき、専門的な技術・知識の他に「目的意識を育て適正を見つけて育てるプログラム」と「プロに必要な態度・思考・倫理とそれらの基本となる知識を身につけるプログラム」の3種類を体系的に結んでいる。	カリキュラム作成の際「学科調査」「業界調査」「競合校調査」を行い、内部と外部の現状理解、課題を抽出した上で、「教育目標」「養成目的」の設定、「ミッションプログラム」「ミッションプログラム」「プロフェッショナルプログラム」への科目振り分けにつなげている。		
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	3	実学教育・人間教育・国際教育の理念の下、卒業時のゴール（目標）をしっかりと定め、学科の科目に適正なカリキュラムが連携して生まれ、「教育指導要領」で教職員・講師間での徹底が図られている。	各科目の位置づけについては、上述「MMPプログラム」に従い行われている。		
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	3	ここ数年大きく変わってきた学生に対応したキャリア教育へのシフトを方針とし、その中でキャリア教育の体系化を図り、学生の入学前から在学中、そして卒業後までサポートする職業教育へとつなげていく。	「チーム医療教育」により、地域生活から医療現場まで、それぞれの場面に応じた専門職の役割や連携を理解し、必要とされる知識・技術を習得する。また、社会人及び医療人としての行動変容の必要性に気づき、主体的に行動できるようになることを目的としている。学校関係者委員より、医療スタッフの最大の武器はチームワークであるという意見をいただき、コミュニケーション能力をアップするべく連携教育にも重点を置いている。		
	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	前期・後期の各1回、学生に授業アンケートを実施している。評価体制としては、授業アンケート結果と、オープン授業（公開授業）を通して、各講師の専門性の把握及び評価を行っている。	授業アンケート、オープン授業共に教務部長もしくは学科長と講師が面談を行い、授業の問題点に対する課題提案をし、授業改善につなげている。また、定期開催される講師会議を通して、成功事例の共有化も図っている。		
	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	育成目標達成のために、実習先や第一専門職種就職先の協力を仰ぎ、より現場を理解し、最前線で活躍している講師を確実に確保する取り組みを行っている。	各科目教授のための要件を満たすことは当然だが、現場の第一線で活躍し、尚且つ教育への熱意あふれる講師を採用している。		
	3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	3	教職員の質向上は必須条件であり、学校と学園でそれぞれ研修を実施している。	教員研修内容（一部） 担任研修 専門職研修 連携教育研修 カウンセリング研修などにより教職員としてのスキルとマインドの質的向上を目指している。		
	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。	各科目、定期試験でAからEの5段階評価を行う。科目の評価は、定期試験にて評価する。		
3-18 資格取得の指導体制はあるか	3	学科ごとに目標としている資格に対して、100%合格を目標に独自に対策を立て実施している。目標に達していない一部の資格に対して、今後合格率を向上にむけた更なる対策を講じていく必要がある。	資格取得のサポート体制としては、学科ごとに若干異なるが、ほぼ全ての資格に対して対策講座を行っている。際たる例として、視能訓練士国家試験において12年連続100%合格の実績がある。			
4 教育成果	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	7つの項目で毎月15日数字・末数字を確認し、問題がある場合の対策を立て、実行している。	①卒業年次在籍者数 ②就職希望者数 ③求人件数（職種別・有効求人数） ④内定者数（学科ごと、月ごとと累計） ⑤専門就職者数 ⑥月別内定シミュレーション ⑦学生就職活動状況表（学科、クラス別）	③・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・実績を数字で拝見したが国家試験の合格率の高さには目を見張る物がある。退学者、離職者の調査まで実施していることに、教育機関としての本気度を感じた。 ・職場においても継続する事が難しい方が多くなっている。学校で個別なフォローをしていただいた経験が職場でも頑張れる気持ちに繋がると良いと思う。 ・就職率93%とカリキュラムの取り組みは評価する。国家試験合格率向上について、具体的には今後どのような取り組みを考えているのか知りたい。 ・就職率を上げる活動、取り組みを評価する。独自の発想の連携教育の意味は大きい。 ・就職率の高さ（就職希望者全員内定）と資格取得率の高さを見ても教育の成果はしっかりと出ている。 ・資格取得へ向けての対応等、個別対応も含めて引き続き行っていただきたい。
	4-20 資格取得率の向上が図られているか	2	事業計画において、単年度及び5年後までの取得率目標を設定している。また、開校以来、各学科のカリキュラムは、専門資格100%取得を重視して設計されている。資格取得者数及び合格率に関し、各学科において自校の結果や年度推移の把握、データ化を実践するとともに、他校の結果や全国平均合格率の推移のデータ化を行っている。	学園本部には国家試験対策センターが設置され、学園グループ全体の国家試験合格率向上のための取り組みを行っている。また、グループ校の同学科で構成される教育部会を設置し、100%合格のための仕組みづくりを行っている。		
	4-21 退学率の低減が図られているか	3	年度当初に、前年度の退学者の傾向を分析し対策を立て、年度末には、進級・卒業判定会議資料として退学者数、退学時期、問題分類等の結果で学科総括と次年度対策案を作成している。心理面サポートとして、担任面談やJ.T.S.C（カウンセラー）との連携を行っている。学習面に関しては各学科基礎学力向上や資格試験対策補習の体制を行っている。	進級・卒業判定会議は、中間と年度末の年2回実施をしている。中間で問題学生と問題点を洗い出し、早期対応に取り組んでいる。		
	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	キャリアセンターが中心に毎月求人先を訪問して卒業生の状況の把握に努めている。	卒業後1年目に離職率調査を実施し、卒業生の勤務状況の把握に努めている。		

5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	3	就職に対するモチベーションを切らないようにフローで就職支援体制を整備している。	学科別就職ガイダンス→就職模擬試験と自己分析ガイダンス→保護者向け就職ガイダンス→模擬面接会→校内採用説明会→業界模擬面接会	③・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニック、アドバイザー等、状況に応じた学生のフォロー体制がとられており支援体制が整備されていると思われる。 ・学生を様々な形で適切にサポートしていると思う。学費面、生活面、精神面のサポート、そして保護者との連携や卒業生への支援など今後も幅広く行っていただきたい。 ・考えられる全ての面において学生へのサポートシステムが完成されており大変評価できる。 ・全体的な学生支援に関しては十分な対応であると考ええる。 ・保護者との連携など、専門学校としては大変手厚い学生支援をされていると感じる。多種多様な生活環境の学生対応は苦勞すると感じる。 ・入学前に他の専門学校と比較しましたが東京医薬の学生支援が圧倒的に優れていた。子供の話を聞いてもその評価は変わらない。保護者会にも出席したが、懇談の場で丁寧にカウンセリングをしていただいた。（保護者）
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	3	JTSCを設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効的に機能していると考えている。全教職員が「J E S Cカウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち相談に乗っている体制を築き上げている。	JTSC=滋慶トータルサポートセンター(滋慶学園運営の学生相談室)学生相談体制はかなり高いレベルであり、それが、近年の退学率減少に結びついていると考えている。		
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	学生の経済的側面の支援は、かなり高いレベルで出来ていると考えている。特に、フィナンシャルアドバイザーによる学費相談会の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり繰りをアドバイスできている。	学生サービスセンター職員がフィナンシャルアドバイザーとして学園内専門教育を受けている。		
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	学園が運営する「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。	「慶生会クリニック」は内科・歯科の2科があり、学校からも近く、寮などから通う一人暮らしの学生も利用しやすい。また、健康管理費の中から支払いが行われるので、安心して受診できる体制が、かなり高いレベルで機能していると考えている。		
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	社会環境の変化により、働きながら学びたいというニーズが増えてきており、そのニーズに合わせ「ワーク&スタディ」制度を確立している。また、学園クラブ活動の活動を開始し始めている。	ワーク先は医療機関や福祉施設が主となり、学生が現場経験を得る場としても重要である。ワーク先からの求人(アルバイト)も別途頂いており、現場に直結した学び方を実践している。学園クラブ活動について、今後も継続発展を計画している。		
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	「かさい学生寮本部」を学園本部で運営している。寮生の状況については担任と寮長とで連携を取り、学生生活全般の支援を行っている。	寮長不在の寮に関しては寮本部から生活アドバイザーが定期巡回をし、学生の支援を行っている。		
	5-29 保護者と適切に連携しているか	3	入学直前に合同保護者会を実施し、入学後の教育、就職、学費その他手続きについて実施している。入学後は各学科で教育スケジュールに沿って学年ごとに時期を定め実施している。	希望者および必要に応じて保護者との個人面談を行っている。		
5-30 卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生を正会員とした同窓会組織がある。同窓会の目的は、会員相互の親睦、キャリアアップと母校教育の振興に寄与することである。また、同窓会を中心に支援体制を作っている。	特に、資格取得に関して、在校時に未取得でも卒業後も無料で特別講座を開く体制をとっている。また、就職も在校時と変わらぬサポートを行っている。			
6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	国家資格系の養成施設として認可を受けており法令遵守が大前提となり、設備等に問題は無い。実習室に設置されている機器は、臨床実習および就職で医療現場に行った際に学生が戸惑う事の無いように実際に多く使用されているものを取り入れている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新設備や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境での実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげている。	③・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・常に新しい設備が導入されていると感じる。清潔で明るい雰囲気の中で気持ちが良いと感じる。 ・設備、防災に関しては特に問題なし。 ・衛生面に配慮され、また、実用性に富んだ環境に整備されている。防災面のシステムを安全・安心と評価できる。 ・施設や設備の整備もしっかりとされていると思う。また、万が一の場合の防災に対する取り組みも、今後も引き続き実施していただきたい。 ・教育環境としては設備、器具等整備されており申し分ないが、現場以上となり、就職後のモチベーション低下にならないような指導も必要と思われる。 ・入学前に子供と見学したが、就職先の職場環境がリアルに再現されており、実践的な教育をされているということが実感できた。
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2	学外実習は、法定実習はもとより他実習についても明確に教育課程上に位置づけられている。実習実施に際し、要綱やマニュアル、評価基準を明確にし、受け入れ先医療機関や企業等と綿密な打合せの上、実施している。海外研修は、この国際教育という理念に基づく主要な教育実践の場と言える。海外研修は、学園の考えでもある「国際教育」を実践するものであり、海外研修の渡航先に関し、各学科の目指す業界に対して一番の先進国であり、そこでの活動を十分に体験出来ることを前提に選定している。	学外実習や海外研修を行うことは、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。また、各学科における法定実習は法令で定められている実習時間数を上回っている。		
	6-33 防災に対する体制は整備されているか	3	東日本大震災の教訓を生かし防災マニュアルを整備し、災害の種類による対応と防災訓練を行っている。管理会社も訓練に参加し、写真等の記録も残している。防災・防火に関する点検は法令に基づき管理会社が実施をしている。震災後、建物や設備の総点検を行い建物の補強や備品の固定を徹底した。	緊急地震速報システムを設置し、地震が予想された場合、全館に放送が流れ学生に安全確保を呼びかけている。また、安否確認システムにより学生の携帯電話から安否を把握するシステムも導入している。		

7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	3	本校は東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（推薦入試による受け入れ人数等）を遵守している。	学生募集活動及び広報活動は入学前教育という位置づけにしている。受験生の、①職業適性の発見・開発、②目的意識の開発、の支援をしていく重要なプログラムあるという考えである。	③・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール・ホームページなど積極的な取り組みを見ている。少しでも多くの保育士を要請して欲しい。 ・適正かつ公平に行われている。学生の立場、事情を勘案された支払いを求めていると評価できる。 ・募集活動および学納金など学生の受入れについては適正に行われていると思う。 ・入学前から教育を始めるという発想が、大学や義務教育には無く感心した。また、保護者の立場としては学納金が全て込みで表示されていたので混乱も無く助かる。
	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	本校の強みとして、専門就職実績と専門資格実績、中途退学者の状況等、実数値を用いて公開している。また、平日学校見学やチーム医療フェア等通じて学校公開に努めている。	資料請求媒体誌・入学案内・ホームページ・学校説明会（オープンキャンパス）と一貫性のある学生募集活動を展開している。平日学校見学においては授業見学も行っている。また、チーム医療フェアは地域・一般の方にも開放している。		
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	入学選考に関しては、基準を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。面接・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果をふまえて総合的に判断している。	合否の判定体制に関しては学校長・事務局長（局次長）・教務部長・広報センター長・全学科長により構成される「選考会議」にて合否を確定する。		
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか	3	学納金は妥当なものと考えている。根拠としては常に学納金を下げていけるよう、予算管理を行い無駄な支出が無いか確認をしている。在学中の徴収金額の総額を募集要項に記載し、事前に明示の無い徴収は行わない。	学納金は、その学科の教育目標達成（卒業時の到達目標）を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費（講師・教職員）、実習費、施設管理・運営費等に当てられている。		
8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	5年間の中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。5年間の計画を立てることによって、短期的視点だけではなく中長期的な視点に立って学校運営を計画することになる。	財務基盤の安定を図るために、指揮命令の系統を明確にし、計画（予算）の確実な遂行、予算実績対比により計画通りに実行されているかを確認する。	③・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・かなりしっかりした経営をされているようだ。外部監査はかなり厳しい評価を受けるとおもうが、そこでの高評価は信頼につながるので今の方針を進めていただきたい。 ・事業計画を基に学校運営が出来ているのだと思われる。引き続き適正な体制と計画に基づき運営していただきたい。 ・財務については、収支計画の作成および会計監査、情報公開など適切に実施されている。 ・計画、審議、予算配分が倫理的かつ公正に行われている。
	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	5ヵ年の事業計画においては運営方針に基づいて計画され、収支計画も運営方針に基づいて数値化される。特に、収支計画は各学科の入学者数目標と予測、在籍者目標と予測から綿密な計画を立てている。	学校、学科を取り巻く環境を常に考慮し、単年度ごとには見直し、健全な学校運営・学科運営が出来るよう努力している。年度当初の予算計画は、ほぼ年度末の収支決算と一致している。		
	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか	3	会計監査は法人及び学校（以下、法人等という）の利害関係者に対して法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人（公認会計士及び監事）が法人等とは独立して計算書類が適正かどうかを監査することを意味する。従って、会計監査が適正に行われるためにはその体制を整えておかなければならない。	公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。		
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	3	私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備し、公開準備中である。	<体制> 1. 法人統括責任者（常務理事） 2. 学校統括責任者（学校運営の現場責任者＝事務局長） 3. 学校事務担当者（学校の経理責任者＝学生サービスセンター長）		

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令を遵守するという考えを学園の方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。	全ての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し実践する。	3・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員の遵法精神が根付く運営がなされていると評価できる。 ・法令研修を実施し、意識を持つようにするのは大切な事だと思ふ。個人情報保護の件も徹底されている姿勢を感じた。 ・法令を遵守するための仕組み、点検システムがあり、今後も引き続き行ってもらいたい。 ・コンプライアンスに対して目配りされていることに感心する。自己点検して業務を省みる制度を設けられていることに、しっかりとした経営を感じる。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	教職員に対して、就業規則等にも個人情報保護を明記するとともに、研修を実施している。近年、急激に普及し問題となっているSNSに関する取り組みも行い学生への教育に生かしている。個人データの管理取扱い、サイトの運用は関連企業の協力を得て適正に管理をしている。	下記事項に関して徹底した個人情報保護対策をとっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な個人情報の収集、保管、使用、開示及び提供に関する事項。 ・保管している個人情報の保護・修正・変更に関する事項。 ・対外的な当校の個人情報取扱についての周知、問合せ・苦情受付に関する事項。 ・教職員への教育・研修、周知徹底に関する事項。 		
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3	自己点検は平成15年より行っており、平成17年には、自己点検・自己評価についての方針を常務会にて打ち出され、その方針のもと、平成18年12月委員会を立ち上げる。私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、本校の自己評価を真摯に行うことを確認・19年度以降の事業計画にも反映し、全学でこれを基にした改善に努めている。	今後も積極的に自己点検・評価に取り組み、これを基にした改善に努めるとともに、学校の教育コンテンツを広く社会的に発信できる場と考える。		
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか	3	毎年評価を行い報告書にまとめている。第3者評価を受けて以降、要望に対しては公開している。最新の評価結果についてはHPにて公開中。	平成26年度、2回目となる第3者評価を受ける予定。		
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	本校では学校の存在価値として4つの信頼を掲げている。その中に地域からの信頼を掲げ、社会貢献、地域貢献に積極的に取り組み、地域の方々からの信頼を得られる事を行動の指針としている。	<p>具体的な取り組み例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) こども心理科 週1回こども教室を行い、本校近隣在住の1歳児から5歳児の乳幼児が来校。保育活動の実践を通じて保育力を身につけている。 2) 言語聴覚士科 就学前の言葉の発達に問題を抱える幼児を対象として、言葉の発達の支援を実践している。 3) 視能訓練士科 小学校の眼科健診補助を毎年行っている。 4) 救急救命士科 救命救急講習やAED講習等行っている。 	3・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献と同時に学生の教育の場を兼ねているところに感心した。 ・地域活動が積極的に行われており、地域貢献を今後も積極的に行う事を望みたい。 ・社会貢献は人間教育を行う上で重要と思う。今後、必要となる自分達の世代や環境、考え方が違う人たちと知り合い人間性を豊かにするためにも、是非、学生が社会貢献活動を行う場の提供や支援を実施して欲しい。 ・社会貢献のプログラムがしっかり作成されていると評価できる。 ・こども教室、言葉の発達支援など良い取り組みだと思う。保育を目指す学生にはなるべく子供たちと触れ合う機会を作っていただきたい。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	ボランティアは積極的に推奨している。特にこども心理科、言語聴覚士科は、ボランティア実績が多い状況になっている。こども心理科は1年次に、年間のスケジュール内にボランティア期間を定めて、ほぼ全学生がボランティア活動を体験するプログラムになっている。しかし、学校全体として捉えると一部の学科のみの実施に留まっている。	ボランティアについては積極的に取り組んでおり、学生の職業観の形成、キャリア教育の大きな成果を上げている。今後も積極的にボランティアに取り組むと同時に、システム化して、プログラムの1つとしてボランティアを位置づけていく。		
11 国際交流	11-48 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	2	本校は建学の理念の一つとして「国際教育」を掲げている。海外研修はこの理念に基づく主要な教育実践の場になっている。各学科の専長、特色に合わせて、海外研修先を選定し、1週間程度のプログラムで、実施している。また、海外数箇所に学園の現地事務所を設け、学園内組織である国際教育センターを窓口とし、積極的に留学生の受け入れを行っている。	教育体制は、必ず渡航前の実習前教育と渡航後の実習後教育を実施し、動機付け → 海外研修 → 振り返り → 共有のプログラムを行うことで、海外での学習・異文化体験がしっかり経験として生かされるよう取り組んでいる。留学生受け入れプログラムの一環として、セメスターインジャパンを実施し、同一専門分野を学ぶ学生同士の交流を行っている。但し、経済的事情により海外研修に参加できない学生もいる。国内にて実施する国際交流プログラムを更に充実させていく。	3・2・1	<ul style="list-style-type: none"> ・海外での研修は恵まれた環境であると思う。学生時代ならではの経験をたくさんして欲しい。 ・国際感覚を身につける意味は、大変重要と考える。他国からの研修生受け入れも大変評価できる。 ・海外研修及び海外見学者への対応など、適正と思われる。 ・積極的な受け入れ、研修を行い国際交流を充実させていきたい。 ・デンマークのスヴェンボーに行ってきた後、海外に興味の無かった子供が、「海外に行き見識を深めたい」と言うようになった。